

試料・情報利用研究計画書(概要)					
研究番号	2025-1004	利用形態	共同研究		
研究題目	メタ解析手法を用いた、日本人妊婦の妊娠前体格・体重増加量別の栄養摂取量中央値の算出		研究期間	2025年4月 ～ 2026年3月	
主たる研究機関	国立成育医療研究センター社会医学研究部	責任者氏名・職	森崎 菜穂	部長	
分担研究機関	東北大学東北メディカル・メガバンク機構	責任者氏名・職	小原 拓	准教授	
研究目的と意義	妊娠中の栄養摂取を含む食生活は、母児の健康に大きく影響を与えるため、適切な食生活を送れるよう保健指導・栄養指導が行える体制の推進は重要である。しかし「食事摂取基準2020」にて「妊婦専用の目標量を設定する必要性・可能性について詳細な研究が必要である。」と記載されている通り、妊娠中の適切な食・栄養に関するエビデンスが不足している。特に、2021年に改訂された「妊産婦のための食生活指針」で示されている体重増加の管理の目安は妊娠前体格別に設定されており、妊娠前にやせている女性ほど体重増加量が多くなることが推奨されているにも関わらず、エネルギー・各種栄養素の付加量の設定根拠となりうる体格別の妊娠期別の栄養摂取実態を把握できる国民の代表性のあるデータが不足している。本研究では、エネルギー・各種栄養素の付加量の設定根拠となりうる体格別の妊娠期別の栄養摂取実態を把握することを目的とする。				
研究計画概要	日本人妊婦を対象に過去に収集された食事記録データを利用した二次解析である。2000年以降に日本国内で実施された、妊婦について定量的に食事摂取内容を把握した調査の情報を、妊娠前体格別・妊娠中体重増加量別にメタ解析あるいはプール解析することで、エネルギー・各種栄養素の付加量の設定根拠となりうる体格別の妊娠期別の栄養摂取実態を把握する。国立成育医療研究センターの研究責任者が各食事調査の著者に連絡し、各共同研究機関からデータ提供を受ける。東北メディカル・メガバンク機構からは、2022年～2023年に実施した「妊婦を対象とした食物摂取頻度調査票の妥当性の検証」で得られたデータを提供する。				
利用試料・情報	対象:「妊婦を対象とした食物摂取頻度調査票の妥当性の検証」の参加者 122名 試料:なし 情報:年齢、妊娠前の身長・体重、調査時妊娠週数、調査時の体重増加量、分娩週数、児の出生体重、妊娠中の総体重増加量、食事記録データ				
期待される成果	エネルギー・各種栄養素の付加量の設定根拠となりうる体格別の妊娠期別の栄養摂取実態を把握することができ、母児の健康に大きく影響を与える妊娠中の食生活に関して、適切な保健指導・栄養指導を行える体制の推進への貢献が期待される。				
倫理審査等の経過	2025年3月 国立成育医療研究センター倫理審査委員会				
倫理面、セキュリティ面の配慮	本研究は各個別研究から得られた情報のうち個人を特定しうる情報を研究 ID 等に置き換えたデータのみを扱う研究であり、個人を特定しうる情報は取り扱わない。各共同研究機関において保管された個人を特定し得るすべてのデータは、各研究の倫理委員会承認事項に従い、共同研究機関内もしくは当該研究の個人情報管理者が厳重に管理する。				
その他特記事項	この研究はこども家庭科学研究費補助金により実施します。				
(事務局使用欄)	*公開日 2025年5月26日				